

加治木だより

No. 12

2007. 3. 1

鹿児島県立加治木高等学校



「大楠」との対話を胸に

校長 小倉 順



暖冬であった今年も、一
通りの寒さがやつと和らぎ、
早春の希望に満ちた芽吹き
の時を迎えました。

本校では新年度を目前に、
現在来るべき百十周年の記念行事等の工夫を
凝らした計画をさらに肉付けしているところ
であります。

ところで生徒や保護者の皆さんには、半年
間不自由をかけた体育館大規模改修工事
も終了し、見違えるようにきれいになり、五
十九期生を気持ちよく巣立たせる環境も整い
ました。一方、さまざまな行事等も滞りなく
無事に終えることができました。これも一重
に保護者の皆さんや地域の方々の暖かいご支
援の賜物と心から感謝申し上げます。

さて、三年生の皆さん卒業おめでとう。い
よいよ新たなチャレンジへと旅立つときが
やってきました。今まで、家庭や地域で育ま

PTA活動を通して

PTA会長 橋本博文



桜の季節も過ぎ、若葉
が輝き出す頃から、保護
者の皆様、先生方のご協
力のもと今年度の活動を
すすめて参りました。

振り返れば、体育館改修のため例年よ
り早い文化祭では、お休み処や、いまや
恒例(?)となったPTAと先生方との
劇と踊りに取り組むことができました。
体育祭は心配していた天気も、皆さん
の気持ちに配慮していた気持ちは晴れて、
無事開催されました。

一日遠行は、午後から小雨模様になり
ましたが、百名を超える保護者のご協力
のもと、事故もなく無事終わることが出
来ました。子供たちにとっては、大変な
経験だったと思いますが、良い思い出と
なることと思います。
これまで行事を通じて、学校での子供

れ、そして小学校・中学校・高校においては、
学問の入り口を体系的に学んできました。そ
して、いよいよ四月から、各人が目標とした
学問に向き合い、さらに力強い「人間力」を
身につける時がやって来ます。

我が校の大先輩である海音寺潮五郎さんも、
母校加治木での学びが大きな糧になり偉大な
作家として活躍されました。尾崎秀樹著
「海音寺潮五郎・人と文学」によると、その転
機の一つが、ノイロウゼで一年間休学された
ときです。この時に堰を切ったように読書を
されたそうです。文学との目覚めのプロロー
グだったのだと推察します。さらに、復学し
た直後に、国漢の金田安先生の導きが大変な
転機を迎えたようです。先生は海音寺青年の
文才を認めて、「どうだ、毎日一篇ずつ文章を
書いて見ないか。そのうちで一番良いものを
君の成績にしようじゃないか。」と言われたと
いうのです。特別にほめられて励まされたこ
とで発起して文章を意識して書くようになった
そうです。

高校時代に海音寺さんに見られるこのよう
な転機と出会えた人もいます。そう
や友達の様子、雰囲気などが分かります
ので、家に帰ってから話題にもなり、楽
しみの一つになりました。高校は、小中
学校と違い保護者の参加の機会が多くは
ないかと思いますが、少ない機会でも
その時間を共有することの大切さを感じ
ています。

高校生となり、自立する年頃なのかも
しれませんが、つい心配ばかり先立つ
てしまい、子供と衝突することがあると
思います。何と言っても子供を育てるの
は家庭が中心ですから、あたたかく見守
りながら、不安や悩みを自ら解決出来る
力を培うことを手助けすることが大事で
はないかと思えます。しかしながら、保
護者の気持ちは、子供へも影響します。
それを少なくするためにも、保護者同
士の交流を通じて意見交換をし、先生方
と親睦を図ることで、それぞれの立場を
理解し、そして、取り巻く状況を見つめ
直す良い機会にもなります。
PTA活動としては、一つは、子供た
ちが学ぶ場を常に活気に満ちあふれたも

なかつた人も、どこかで人生の大きな転機が
やってきます。大学かもしれない、社会に出
てからの場合もあるかもしれません。さまざ
まな師が与えたチャンスを見逃さずに謙虚な
気持ちで受け入れることができるかどうか、
あなたの人生を大きく左右します。それも、
皆さんが歴史と伝統を誇る加治木高校の、あ
なたの下で、その大楠や加治木の自然と、
また多くの友と、そしてさまざまな影響を
受けてくれた先生と、共に対話し、学習したこ
とが、基礎的な学びとして大きな可能性へと
広がっていくと考えます。加えて、一人一人
が真の加治木高校生を目指した日々の行いが、
大学や社会に出てからの大切な財産として、
体の中にきちんと体内時計のごとく留まっ
ており、いざ鎌倉というときには、体で証明で
きる行動力として備わっているものと確信し
ております。

さて、思い切って洋々たる海原に漕ぎ出し
て欲しい。先生と一緒に皆さん一人一人が幸
せで素晴らしいチャレンジを目を細めて眺め
たいと思います。

のにする為「よい環境での学校生活づく
りのお手伝いと家庭教育」二つめは、子
供たちが明確な目標を持つことが出来る
よう、「進路実現への協力」をすること。
三つめは、「学校行事への積極的な参加
を促すこと」です。これらにより、心の
豊かさを享受し育んで行くことで、子供
の健やかな成長を手助けすることにあり
ます。今後も皆様のご理解と協力をよろ
しくお願いいたします。

さて、早いもので三年生は、旅立ちの
季節になりました。これまで、文武両道
を重んじる加治木高校生として、貴重な
経験をされたと思います。これからは、
皆さんが培ってきたそれぞれの経験を胸
に大きく羽ばたいてください。目標に全
力で向かって行くことで、必ず成果が得
られることと思います。
最後になりますが、本年の活動を支え
ていただいた保護者及び学校、関係者の
皆様、厚く御礼申し上げます。ありがと
うございました。

「不易流行」

生徒指導部 大野 功

「不易流行」という言葉があるが、教育における「不易」なるもの、「流行」なるものはなにか。ある試験の面接で質問された。的確に答えられなかったという卒業生の話を聞いたことがある。「不易流行」とは、松尾芭蕉が唱えた俳諧理念のひとつで、「不易」変わらないものと、「流行」移り変わるものは、根本では同じという意味である。

国際化、高度情報化、高齢化、環境問題等、社会がどのような方向に動いているかという「流行」を見極め、その変化に対応していくと共に、他人を思いやる心、伝統や文化を大切にすること、公共の精神、規範意識、豊かな人間性等、人として大切なことは何か、基本的な生き方のモラルを高校時代にしっかりと身につけて高校を巣立ってほしいと思っている。簡単に自分の可能性を放棄したり、安易に現実と妥協することなく、将来に必要な知性と豊かな感性、それを生かす体力・気力を自らの真摯な努力によって培ってほしい。

時代を超えて変わらないもの、新しさを求めて変化していくもの、これまでも繰り返して語ってきた挨拶（心を磨く）、服装（心を整える）、清掃（心を磨く）等の基本的な生活習慣は、「不易なるもの」のひとつであろう。何かをしようにするとき、その行動が、今、本当にとるべき行動か否か。その人の価値観や判断力が問われるのである。「不易なるもの」日々の積み重ねが、信頼関係や人間的成長へつながるのだと考える。

二〇〇六年の世相を象徴する漢字に選ばれたのは「命」。いじめ、虐待、飲酒運転による事故等痛ましい事件が相次ぎ、二つしかない命の重み、大切さを痛感した年であった。

今年の漢字はどんな一文字になるのだろうか。喜びや希望、心の豊かさ優しさ象徴するものであってほしいと思う。

食習慣の自立期としての食事

保健部 柿元 信一

高校生は、発育・発達が著しい時期である。この時期に栄養の不足や偏りなどで発育が抑制されると、後でその遅れを取り返すことは難しくなり、将来の健康に悪影響を与えることになりかねない。

高校では、学校給食がないため、その結果昼食も自分で食事を選択するようになる。さらに、早朝からの補習・深夜までの勉強により生活が不規則になり、食生活も乱れがちである。従って、必要な栄養の選択が出来るような知識を身に付けておく必要がある。

高校生の食事のポイント

- 一、三度の食事をしっかりと摂ろう
- 特に深夜までの勉強などで、夜食を摂る機会が増え、朝の食欲不振を招いたり、起床時間が遅れることにより、朝食が摂れない傾向がある。本校の調査結果では、男子一四％、女子一三％、七％の欠食が見られた。
- 朝食を摂ることで、脳が活発に働き、集中力もやる気も高まる。
- 骨を形成するカルシウムを多く摂ろう
- 家庭クラブの調査（二年生）によると、牛乳を毎日飲む生徒は四一、〇％だった。急速に成長する時期に当たるため、カルシウムの豊富な牛乳・乳製品を摂るよう心がけよう。
- 昼食は、可能な限り弁当を持参しよう
- 単品メニューでは、栄養に偏りが生じやすい。この時期には、特にビタミンやミネラル豊富な野菜や果物を十分に摂るよう心がけることが大切である。
- 最後に、個人が多忙な時間を過ごす日常にあって、家族揃って食事をする事で、家族間の会話の機会を増やし、心の栄養も満たされた高校生活を送ってもらいたいものである。

素直な心・高い意識

自ら取り組む姿勢
進路指導部 鮎川 武良

昨年末に、四年前に本校を卒業した生徒の同窓会に参加した。今年三月に大学を卒業する学生である。本人達の努力に加えて最近の景気回復傾向もあり就職を希望している学生は全員就職先が決まっていた。皆、社会という新世界へ飛び出す期待の笑顔と、社会へ旅立つ不安な表情が入り混じった顔をしていて、理系の生徒の多くは大学院へ進学するということがあった。現在、理系の専門職に就く者は、大学は六年間修めることが当たり前になってきている。即戦力の働き手を目指す企業が専門的知識を持つ学生を求め、成長し、就職・進学と各々進路を定め、やる気に満ちている姿を目のあたりにして心からうれしく思うことであつた。

さて、一月二十日、二十一日に大学入試センター試験が実施された。志願者数は四年ぶりに増加し、約五十五万三千人となつた。全国の平均点は日本史、英語以外のほとんどの科目で昨年度より低下しており、文系標準型で前年より二六・二点、理系標準型で四三・三点、いずれも低下した。昨年度から始まつたりスニグテストでは再試験を受けた受験生は大幅に減少したようである。（本校での対象者は昨年度一名、本年度なし。）新課程入試二年目のセンター試験であり、当初の予想どおり難しい問題が出題された。本校では昨年度よりは得点率は下がったものの、ほとんどの科目で全国平均を上回る結果となつた。これは一年次からの学習を中心とした学習スタイルの確立、また授業の進め方や進路意識の向上に重点を置いての学年の先生方の、厳しくきめ細かな指導が実を結んだ成果である。現在、国立公立大学への出願も終わって、個別学力の試験（二次試験）に向けてそれぞれ生徒が特別授業などに一生懸命取り組んでいくところである。

卒業生諸君にはこれまで通り、思いやりのある素直な心と自ら考え取り組む姿勢、目標を立てそれを達成する強い心（最後まであきらめない心）を持ち続けることで、先に述べた先輩達のように希望に満ちた将来をつかむことを願っている。

一、二年生諸君、今回のセンター試験の結果から見ても一年次からの学習に対する取り組みがいかに大切か実感できる。センター試験の問題はほとんどが一年次・二年次の学習内容から出題されており、基礎基本（覚えるべき内容）の定着の上で、一ランク上の学力（応用力）が必要になってくる。したがって今、この時を大切にしたい。この授業で勝負し、自身の濃い時間にするために学習で大変重要な点である。学習で理解できなかった点を授業で確認し、理解する。そして復習し定着させることによって実力が身に付いていくのである。学習で自ら考え解くことは思考力・読解力・分析力などを養うこととなる。これが難問を解く二次力となっていく。

難関大学を受験する生徒ほど学習の時間が長いというデータが出ています。なぜ学習をするのか？どんな気持ちで授業に臨むのか？ベストなのか？どうしたら実力は付くのか？それは自ら考え行動することだと思ふ。ぜひ、目標をしっかりと持ち、それを勝ち取るために家庭での学習に真摯に取り組むことを望む。

三月から四月にかけての時期は、何となく気が緩みがちとなる。この時期を無駄なく過ごすために三月二日から朝補習が開始され、二年生はマーク模試が行われる。加治木高校では授業・朝補習・土曜講座さらに課題などを含め、各教科で三年間を見通した上で効果的に学力が身に付くよう、計画的な学習指導が進められている。素直な心をもって学年や教科の先生方の指導に従い、高い意識と向上心を持って学習に取り組んでほしい。

一日遠行を終えて

体育科 富岡 剛

一日遠行は加治木高校が百周年の時に記念行事として始まり、今年度で十回目を数える。コースは起伏に富み、生徒たちにとつて、大変な難コースではあるが、あふれる緑、鳥のさえずり、澄んだ空気が、そして龍門司坂の古き歴史を回想しながら進むことのできるすばらしいコースである。

十一月二十二日、雲一つない秋晴の下、男子二百七十五名が三十五キロ・女子二百九十二名が三十キロ先のゴール目指してスタートした。男子は二年八組の別當健志さん(二時間二十七分)、女子は二年一組の越田満利絵さん(二時間四十八分)がトップでゴールした。別當さんは

昨年のタイムを十分以上更新する力走を見せてくれた。

何よりもすばしらかったのは、大きなけがもなく無事に遠行を終えることができたことである。そして、生徒たちの強靱な体力と強い精神力には驚かされ、感動を与えてもらった。

また生徒たちにとつても、お互い励ましあいながら友情を深めたこと、沿道からの応援や給水所での温かいもてなし等、忘れ難い思い出となり、そして困難を乗り越えた経験は、これからの学校生活へ向けて大きな自信となるに違いない。

一日遠行の成功は、運営にご協力いただいたPTA役員の方々・保護者や地域の方々の協力があつてこそなし得たものであります。ここに深く感謝申しあげます。



修学旅行を終えて

二学年主任 種子田 弘之

オホーツクの海に沈む赤い夕陽に、新雪の降り積もった真っ白なゲレンデに、果てしなく続く緑の地平線に、生徒たちはいったいどんな思い出を刻んだのだろうか。クラスメイトと過ごした三泊四日の北海道修学旅行は、おそらく一生忘れられない思い出となったことだろう。今まで行った、あるいは、これから行くであろうどんな旅行よりも、素晴らしかった旅行として。

鹿の子まだらに雪が降り積もった千歳空港に到着したのが、十二月十二日の午後であった。「思っていたほど寒くはない」が生徒たちの第一印象。長い搭乗か



ら解放されてか、それともこれからのことに思いを馳せてか、みんないい顔をしていた。

黄昏の小樽を散策し、初めてのスキー体験に悪戦苦闘し、大通公園のイルミネーションに目を奪われ、北海道の食べ物に舌鼓をうち、ホテルの部屋で友と語り明かし、四日間はあつという間に過ぎてしまった。

霧島市街地の夜景を目にしなが、帰着したのが十二月十五日の夕方であった。やはり、みんな疲れた顔つき。四日間の疲労か、それとも現実に引き戻されたせいなのか。体調不良になった生徒が数名いたが、全員無事帰ってきたことを素直に喜びながら、今年度の修学旅行は幕を閉じた。

③竹山ダム (溝辺町) PTA 協力者 21名
 ◎市井川真奈美 繪柳千世子

●男子23.7km地点
 ◆女子15.9km地点

★応援の声より～▽まだ来ないハラハラ、やっと来たヨシヨシ、気をつけてドキドキ▽子どもの姿にウルウル…▽はやり！次は箱根駅伝!!▽噂の“母によく似た娘さん”にっこりピースで愛嬌抜群▽母に優しく微笑む息子“親子の会話がほほえましい”
 ★感想の声より～▽毎年恒例の「竹山ダム☆母の味豚汁」を是非多くの先生方に差し上げたい▽全員通過を見送って“応援団”揃っての会食ができ、遠行のご縁で親睦を深めることができました

④提水流バス停 (加治木町) PTA 協力者 15名
 ◎新田瑠璃子 山本真紀

●男子29.5km地点
 ◆女子21.7km地点

提水流給水所は毎年バス停横の自治会長さん宅の水道やお手洗いをお借りしています。“感謝”傘をさして応援!

②県民の森 (溝辺町)
薬草園入り口
 オートキャンプ場前 PTA 協力者 24名
 ◎森川亮子 大脇綾子

●男子18.5km地点
 ◆女子10.7km地点

▽テントが初めて設置されて感激！
 ▽今回、時計と通過人数カウンターの導入で進行状況がよくわかり協力者や生徒にも好評▽救急箱を朝から準備してほしかった(けがの治療に間に合わなかった)▽脚を引きずりながらも「大丈夫です！」と歩き出す姿に感動の涙!!▽親同士の新しい交流が生まれ、楽しかった▽食べきれないくらいの手作りの差し入れにびっくり!▽来年も絶対参加します!

⑤龍門司坂下り口 PTA 協力者 11名
 さえずりの森 (加治木町)
 ◎中村美千代 菊池敦子

●男子32.8km地点
 ◆女子25.0km地点

▽歴史の坂の長さは464mです!▽さえずりの森の炊事棟で水汲み▽種子田さん(この5年間毎年協力)が軽トラックを出してくれたので助かった▽バナナの差し入れを頂き、ランナーに提供▽15時30分撤去作業▽最後雨が強くなり反省会ができなかった▽寒い中で一日中カウント係をされた先生方やチェック係の生徒さんにも温かいおしるこをだした

①県民の森 中央広場 PTA 協力者 17名
 野外ステージ (始良町)
 ◎石井みち 池田加代美

●男子12.5km地点
 ◆女子 4.7km地点

▽協力者の笑顔、懸命なお手伝い、子どもたちの頑張っている姿が見られてよかった▽チョコレートが大人気もう2袋追加を!▽コップ洗い作業はとてもスムーズ▽差し入れも美味しかった▽生徒のカウント係とチェック係は同一地点にいたほうが混乱を防げるのでは、▽子どもに元気をもらった

⑥学校 ゴール PTA 協力者 15名
 ◎弟子丸政江 本田容子

●男子 35km
 ◆女子 約30km

▽9時に集合▽事前申し込み時は午前中の協力者が少なくて心配したが、直前増え、有村さん(お父さん)を含む15名の手伝いがあり助かった▽軽トラックがあり水汲み等短時間で準備できた。(例年、校舎からグラウンドまで重いポリバケツを持って階段を降りていた)▽例年ゴールでは氷を準備(冷たい麦茶を提供)するが、寒い一日だったので熱いお茶がほしかったのでは▽もう少しゴールする瞬間を感動的に迎えてあげたかった▽ゴールに入る百メートルくらい前から応援体制を取り入れたらどうか?▽数少ない高校生活の行事での子どもの頑張りが完歩走して満足げな顔を実際に見て感動をとものにできた

第10回
一日遠行

男女9時スタート!

●北山小学校前 女子スタート
 ●寺師十文字 男子スタート

ゴール

十一月二十二日(水)実施
 PTA協力者 一〇九名
 参加者 一・二年男子 二七五名
 女子 二九二名

11時27分2年の別當くんが1位でゴール!アーチや大勢の応援があれば最高ですね..

Memory・・・親子の会話

3年P 池田 加代美

「卒業おめでとう！入学から3年、あつという間だったね。」

「入学した頃は、えらい所に来てしまつて、勉強についていけないかなあと不安だったよ。」

「高校生活で一番の思い出は何？」

「何といつても修学旅行。スキーをしたことが一番！木にぶつかって大変だったけどね。」

「ところで、学校生活の中で心に残る先生の言葉ってある？」

「うーん・・・」

「質朴剛毅とかいう言葉があるよね。社会人になってからね、ふつと思ひ出すよ。お母さんはそうだった。最後に卒業の感慨ってある？」

「一番思うことは、部活を続ければよかったということだね。それが、僕の最大の後悔だな。一年でやめたけど、時間ができて勉強に打ち込めるかと思つたけど、実際には張り合いがなくなつて、時間を活かせなかつたよ。」

ありがとう加治木高校

3年P 江川 久仁子

「高校生活はどうだった？」と、娘に聞くと、「勉強は辛かつたけど、気の合う友達もできたし、今年は図書委員にもなれて楽しかつたよ！」と返事が返つてきて、「私も」と心の中で思いました。

六年間を振り返ると、つたない私が四年間も学級理事をさせて頂き、そのお陰で色々な方と出会い、また間近に子どもたちの高校生活を感じる事ができ本当に幸せでした。担任の先生は勿論、難しき年頃の子どもを支えて下さった保健室の先生、我が家の話題の中心だった図書室や司書の先生、理事会のあつた会議室、母の会の新聞作りで集まつた龍門会館等など・・・加治木高校は今の私の第二の母校になりつつあります。

たくさんさんの思い出を胸に旅立つ娘。私も何度目かの自立の時を静かに受け入れたいと思つています。

卒業・ありがとう・加治木高校！

卒業に寄せて

Spring has come 春がきた♪

3年P 森田 千佳子

まだまだ寒さが残るとはいっても、暦が二月から三月へと移つただけで春がやってきたような気分になります。そんな春三月に、ふたりの娘が六年間通い、そして同じ年月をPTA役員として係わつてきた私も卒業することになりました。思い出は書き尽くせないほどに多すぎて、今更にお世話になつた先生方へは勿論のこと、友情を育んだ素敵なクラスメイト、そして感動を分かち合つた部活の仲間たちに、感謝を申し上げたいと思います。

耐震工事から空調工事へと、卒業生にはこの三年間ずっと工事中の校内でしたが、本当に綺麗に様変わりしました。

卒業式に間に合うように完成したばかりの体育館で、感動と寂しさの入り混じつた大粒の涙を流すのは、娘よりきつと私の方かもしれません。そして、「紫匂う桜島♪」加治木高校の校歌を感無量で歌いたいと思います。

娘にとつての人間美学がここで形成されたのか・・・？それを実感するのは十年後、二十年後かもしれせん。しかし、ここで過ごした三年間の熱いドラマは一生の宝物となるはずですよ。校庭の楠の木は、卒業生の来訪をいつでも快く出迎えてくれることでしょう。

PTAからの卒業

3年P 新田 瑠璃子

この春、息子が卒業する事になり、親の出番もそろそろ終わりに近づいてきました。

この頃は、手抜き・息抜きも上手になり、お弁当作りは、「天職」とまで感じていた私も、三人目になると学食に頼る事もしばしば。息子が、そのことを喜んでくれるのは、ちょっと複雑な気分。

しかし、受験の事となると、つい口をだしてしまい、上の子で得た情報を、下の子にも当てるはめてしまい、衝突してしまう始末。順風満帆とは言えない子育てでしたが、親の心配をよそに、加治木高校の校風の中で、これからの人生を自分の足でしっかり歩いていくための礎を築いていただいたようですよ。

また、伝統を継承しながらも、新しい気風を受け入れ、発展させてくださった先生方や保護者のおかげで、地区PTAや文化祭への参加など、たくさんさんの思い出もでき、子ども達に負けないう高校生活を楽しませていただきました。

今、我が家の子どもたちは、教職への夢に邁進しておりますが、その陰には、母校の先生方の姿が手本になっていることに感謝しつつ、親と子を共に育ててくれた学び舎にお別れをしたいと思つています。

本当に長い間ありがとうございました。

「卒業おめでとう！折再会」

地歴公民科 宮内 宗久

「今大阪地検大変なんです。帰ったらまた特捜部で寝る暇ないです。」私、小学校の先生やっています。信じられないでしょう？蒲生小です。「今専業主婦です。子育てが一段落したらまた歯科医に戻ります。」

今年の正月、卒業して二十三年ぶりに再会した教え子たちの同窓会での会話である。三百余名中百余名が集まり、盛會であった。皆頼もしい大人になっていた。さて、季節は今まさに厳冬。野山は厳しい寒さで冬枯れの様相である。しかし、やがて水温み、梅が咲き、桃が綻び、桜が蕾む。いずれも厳しい寒さに耐えての「わが春」の到来である。これ見よがしに咲き誇る姿は実に目映い。

ところで、この自然界の摂理にこそ我々の在りようのヒントが隠されている。いや、いか。件の教え子たちが卒業後、それほどの厳しさに耐え、いかに努力してきたか知る由もないが、現在の自分を謳歌するその姿には、幾多の苦勞を重ねてきたであろうことが察せられ、頼もしくまた輝かしくも見えた。

今まさに受験という試練の真つ只中にある三年生諸君。今の頑張りや華やかな「春」を引き寄せるのだと信じて精進してほしい。今の苦しみは、長い人生の中では他愛のないほんの一瞬のことです。「楽も苦も時過ぎぬれば跡もなし、世に残る名をたたく思ふべし」(島津いろは歌)

何年か後、努力で掴んだ君たちの輝かしい人生に出会えることを楽しみにしています。卒業おめでとう。折再会。

明日があるさ

芸術科 五反田 邦夫

卒業おめでとう。みんなよく頑張りました。全員花マルです。これからは自分を信じ自分の道を自分の力で進んで下さい。世界的に有名な画家で最初から認められた人はいません。自分を信じ認めら

れなくても自分の可能性を追求し続けた人達です。野球でも九回ツーアウトからのドラマもたくさんあります。人生はこれからが発点、明るい明日が待っている。



地図のない旅

三学年主任 政元 智

今から五十年前前、ヘミングウェイは「もしも私が幸運にも青春時代パリに住んだとすれば、きみが残りの人生をここで過ごそうともパリはきみについてまわる」と書いた。

加治木高校で三年間を過ごした君たちには、蔵王嶽や大楠が青春時代の原風景として、ずっと心の中に残り続けることだろう。この場所でも練り広げられた数々のドラマも幾度となく蘇ってくるにちがいない。時にはしがらみから逃れたいこともあろうが、大楠はいつもの場所です。君たちを待っていてくれる。有り難い存在である。

さて、これから君たちの新しい旅が始まる。地図のない旅である。途中で行き止まりになるかもしれないという不安感もある。未知の世界へ踏み出す高揚感もある。「道に迷ったら、慌てて道探しをせず、迷い始めた地点まで戻り、現在位置を確認するのが一番だ」と山歩きの好きな友人から聞いたことがある。

二十一世紀になって七年、世界各地の紛争は収まらず、解決の糸口さえ見えない問題が内外に山積している。まさしく

混迷の時代である。そんな時こそ原点に帰り、行くべき方向をじっくり見定める姿勢が必要となってくる。混迷の時代は新しい時代の始まりでもある。帰るべき原点としなやかな感性を持ち合わせた君たちが活躍する場は限りなく多い。卒業おめでとう。前途に幸あれ。

世界に羽ばたけ

教頭 和田 優子

卒業おめでとう。会者定離と言いますが、三年前の皆さんとの出会いは、卒業という人生への旅立ちのためのものだったのです。別れは辛いものですが、皆さんの無限なる世界への闘いの第一歩と心得て、気丈に送り出したいと思えます。さて、本校の行事で特に印象深いものの第一位は、一日遠行でしょうか。車での下見で、コースのアップダウンの厳しさに驚きました。昨年は、参加者全員踏破で、しかも制限時間内での完走というすばらしい結果でした。ゴールでの感動の瞬間に立ち会えたことを嬉しく思いました。肉体的にも精神的にも苛酷な完走を、自分の力で成し得たということ。この自信は大きい。一人一人の心に、あきらめず最後の一步まで頑張り通すことができたことの喜び。苦しさが喜びに変わる瞬間を体験したことは、生きて行く上で重要なことです。苦しさを楽しむこと、厳しい闘いの中で、この生き方を生かして行って欲しいと考えます。

また、世界でも活動展開中の「掃除に学ぶ会」に単人で参加した体験から一言、まず、トイレ掃除で便器をこする際、作業は全て素手。手袋等を着用すると、皮膚感覚の鋭敏さを損なうという徹底ぶり。次に、洗剤・すすぎ水の使用も最小限。トイレが美しくなっても、自然環境を破壊しては意味が無いということ。すすぎ水も、バケツ三個で対応。汚れのレベ

ルで使い分け、一番汚いバケツの水のみ入れ替える。出っぱなしは以ての外。作業は高い所から床へ。床を洗い流すのは最後。汚れに顔を近づけ、目や手で確認。百回磨いても落ちなければ、千回。とにかく落とすまでひたすら磨く。遠行や学びにも通じるようです。この磨きは、他の人の心も磨きます。物への感謝や大切にすることを伝えます。「己を磨くは人をも磨く行為である。」と学んだ気がします。世界に羽ばたく人間であれ！

学校活動 活動実績

部活動大会成績一覧

【県内大会】

剣道 県高校新人大会 団体 男子二回戦

ラグビー 県高校新人大会 ベスト8

バレーボール

全国選抜優勝大会県予選

男子一回戦

女子一回戦

女子ベスト8

ハンドボール

県高校新人大会 男子ベスト4

バスケットボール

県高校新人大会 男子二回戦

女子一回戦

バドミントン

県高校新人大会

団体 男子二回戦

シングルス 海江田ベスト16

新体操 県学校ダンス発表会出演

美術部

県高校美術展 高文連賞

(二年濱川夏希)

【始良・伊佐地区秋季大会】
ラグビー 優勝